

このたびは、YSSサスペンションをお求めいただき、  
誠にありがとうございます。

ご使用前に本取り扱い説明書を必ずお読みのうえ、  
正しくご使用ください。

も く じ	●はじめに -----	P-1
	●サグ調整 / 取り付け方法 -----	P-2~3
	●プリロード調整 -----	P-4
	●リバウンド調整 -----	P-5
	●コンプレッション調整 -----	P-6
	●車高調整 / 仕様変更 / 保証 -----	P-7
	●オーバーホールサービス -----	P-8

## はじめに

- 取り付け作業は、確かな知識と技術を持ったプロショップで行ってください。
- サスペンションは車種専用設計です。適合車種以外には使用しないでください。
- 取り付け後、定期的に各部ボルト、ナットの緩みが無い事を確認し、緩んでいる場合は増し締めを行ってください。
- サスペンションボディーおよびリザーブタンクや各ホースのバンジョーボルト、ナット類は絶対に緩めないでください。  
(オイルまたは窒素ガスが漏れ重大な事故を招く恐れがあります。)
- サスペンションには高圧ガスが封入されています。取扱いには十分ご注意ください。
- レース専用品以外は、道路交通法、および道路運送車両法を厳守してください。

## サスペンション交換前に

## -ベースセッティングの計測-

交換作業前に純正サスペンションのサグデータを測定してください。測定方法は“サグ調整”の項目に記載しております。ここで計測した数値は【ベースセッティング】となり、サスペンション交換後にセッティングをすすめていくうえで参考となる値になります。(P8に【MEMO】欄がございます、データの管理等にお役立てください。)

## サグ調整 (適切なプリロード調整)

サグ調整は車両の前後バランスに影響を与えます。調整する際は水平かつ平坦な場所で作業し、2人以上で測定する事をお勧めします。また、P3に記載しております【YSSサグ調整の参考値表】はあくまでも目安です。実際には車両タイプ(ネイキッドやアメリカン)や、ライダーの体重によって適正なサグ値は異なります。走行スタイルに合わせて調整を行ってください。

### 測定位置の決定

アンダーステムやテールカウルなど、任意の **定点** を決めます。  
(マスキングテープなどで目印を付けてください。)

### 無負荷状態の測定

水平かつ安定した場所でセンタースタンド等を用い、フレームを支えてタイヤが地面から浮いた状態で測定します。

【 A = 定点 ⇔ アクスルシャフトの距離 】

### 車両の自重負荷状態の測定

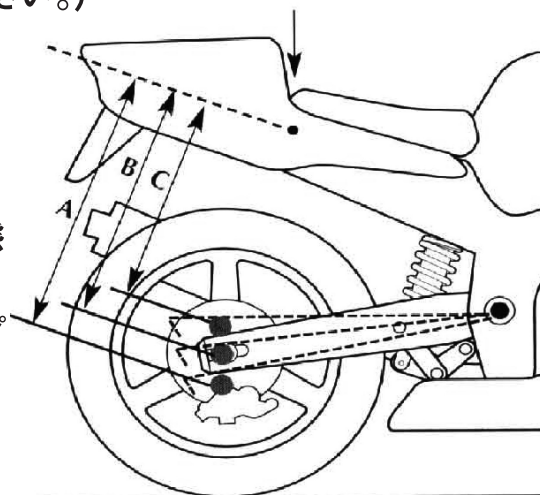
車両を地面に降ろし、車体を垂直の状態に保ちます。サスペンションを数回ストロークさせスプリングの反力と車両の自重でバランスした状態にします。  
(伸ばす方向へ引き上げないようにしてください。)

【 B = 定点 ⇔ アクスルシャフトの距離 】

### ライダー乗車状態の測定

車両に乗車し、両手はハンドルグリップを握り、両足をステップに乗せ、リラックスした状態でライディングフォームを維持して下さい。サスペンションを数回ストロークさせ、スプリングの反力と(車両の自重+ライダーの体重)でバランスした状態にします。

【 C = 定点 ⇔ アクスルシャフトの距離 】



## サグの計算

**【S1】静的サグ = 【A】無負荷状態の値 - 【B】自重負荷状態の値**

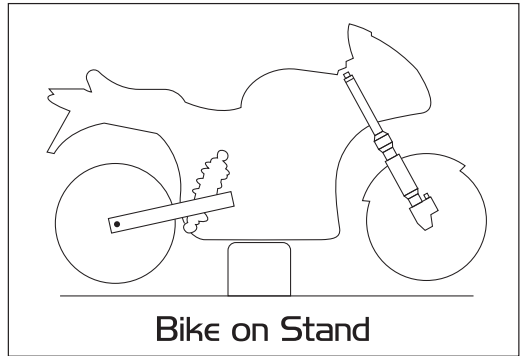
**【S2】動的サグ = 【A】無負荷状態の値 - 【C】ライダー乗車状態の値**

【YSSサグ調整の参考値】

参考値/mm	フロント		リア	
	静的サグS1	動的サグS2	静的サグS1	動的サグS2
タイプ				
レーシング	30	40	10	40
ロード	25	40	20	50
ツーリング	25	40	20	50

## 取り付け方法

- ① 水平かつ安定した場所でセンタースタンド等を用い、フレームを支えてタイヤが地面から浮いた状態にしてください。
- ② サスペンションの取り外し・取り付け作業の支障となる部品を全て取り外してください。
- ③ サスペンションを取り外してください。
- ④ スイングアームが正常に作動する事を確認し、異常がある場合は車両メーカー発行のサービスマニュアルに従って、正常に作動するように整備を行ってください。
- ⑤ サスペンションのマウントボルトやマウントブッシュ、サスペンションのマウント部に少量のグリースを塗布してください。
- ⑥ YSSサスペンションのフルストローク状態を仮定し、スプリングやサスペンションボディーが車両と干渉しないことをご確認ください。
- ⑦ サスペンションを取り付けし、各ボルト・ナットを規定トルクで締め付けてください。



## ご注意

サスペンションを取り付け後、数回ストロークさせるとシャフト周りにグリース(気温によりオイル状にも見えます。)が付着します。これは、組み込み初期の動作時にオイルシールの破損を防ぐ為に塗布しているグリースです。使用上、何ら問題は御座いませんが短期間では蒸発しませんので、気になられる場合は柔らかい布でふき取ってください。

※万が一オイルが漏れている場合は、エンドアイ周辺にまでオイルが垂れ落ち全てのオイルが抜けます。(オイルが漏れている場合はご使用を中止し、YSSサービスセンターでオーバーホールや交換を行ってください。)

## プリロードの調整方法

本製品をご使用になられる前にプリロードの調整を行っていただき、サスペンションのストロークを管理してください。

また、プリロードを変更することによりサグを調整できます。

- ①調整前にプリロードナット周辺のゴミや水分を除去してください。
- ②プリロードナット側面にあるウォームネジを付属の六角レンチで緩め、ロックを解除します。

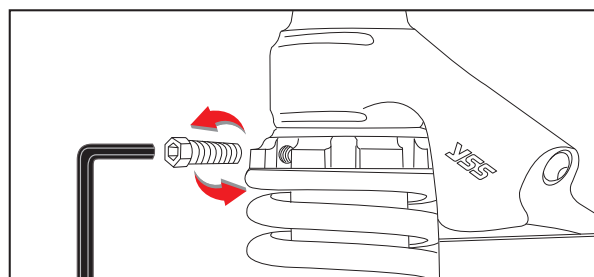
- ③サスペンションボディーのネジ部に、カジリ防止のため少量のシリコン系潤滑スプレーを塗布してください。

- ④付属のアジャストバーをプリロードナット側面の丸穴にしっかりと差し込みアジャストバーを回し調整を行ってください。

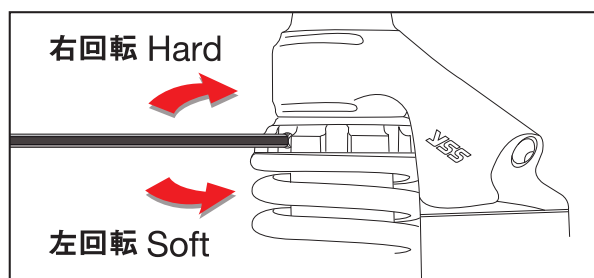
プリロードナットは右に回すと硬くなります。(スプリングの初期荷重が増大します。)

左に回すと柔らかくなります。(スプリングの初期荷重が減少します。)

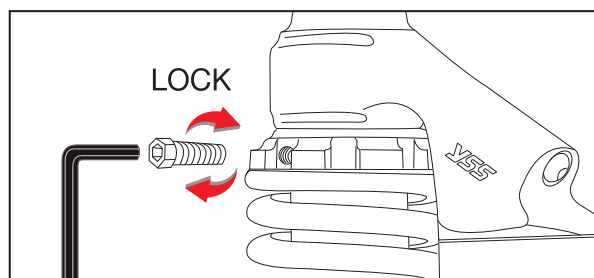
- ⑤ウォームネジを右に回しプリロードナットをロックします。(締め過ぎによるネジ部の破損にご注意ください。)



※ウォームネジは左に回すと緩みます。



※付属のアジャストレバーで調整してください。



### ご注意

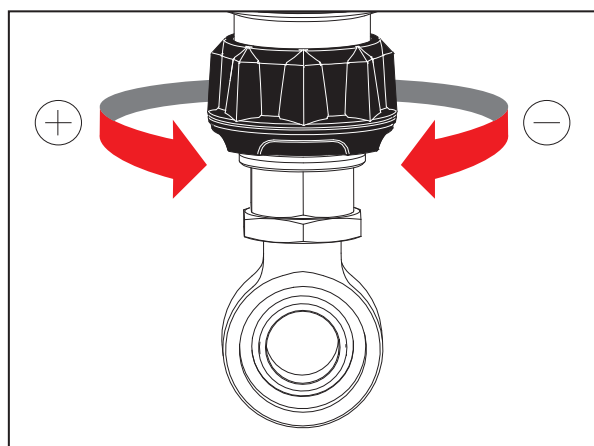
- プリロードの調整作業は、無負荷状態(タイヤを浮かせた)で行ってください。車重などの負荷が掛かった状態で調整を行うとアジャスターのネジ部分を破損する可能性がございます。
- 底付きを繰り返すようなご使用はサスペンションの破損につながるだけでなく、最悪の場合は転倒など危険も伴いますのでご注意ください。

## リバウンドの調整方法

リバウンドはサスペンションが伸びる時に発生する減衰力です。

操作前にリバウンドダイヤル周辺のゴミや水分を除去してください。

- ・右回し(締める)＝ハード(縮む時の減衰力が強くなります。)
- ・左回し(緩める)＝ソフト(縮む時の減衰力が弱くなります。)



### クリック数のカウント方法

リバウンドノブを右に回しきった状態から、左に回した最初のクリックをゼロとし、ゼロ位置から左回しに約30クリックまでが調整範囲となります。(調整範囲を超える操作は行わないでください)

### ご注意

- リバウンドノブの突き当たり[0・30]から無理に回さないでください。内部の部品を破損させる原因となります。
- 操作はクリック感を確認しながら力を入れずにゆっくりと行ってください。
- 調整は安全な場所で行ってください。また1回の調整で3クリック以上変更すると減衰力が大きく変化し走行に支障をきたす場合がありますのでご注意ください。

### ★POINT ポイント

- ・車体がふわふわして、柔らかく不安定な場合は、リバウンドをハード(右回し)にしてください。
- ・跳ね返りが強くゴツゴツして不安定な場合は、リバウンドをソフト(左回し)にしてください。

## コンプレッション調整方法

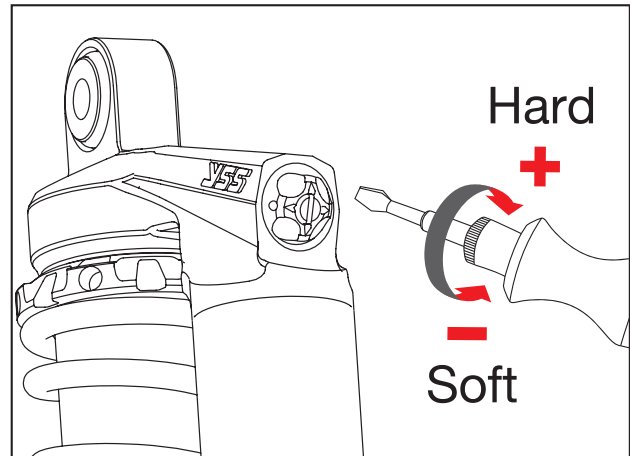
コンプレッションはサスペンションが縮む時に発生する減衰力です。

### ■2スピードコンプレッション

黒色アジャスターは、LOWスピード（低速）の減衰力を調整できます。  
赤色アジャスターは、HIスピード（高速）の減衰力を調整できます。

### ■シングルスピードコンプレッション

黒色アジャスターは、LOWスピード（低速）の減衰力を調整できます。



### ■調整方法

調整前に、コンプレッションダイヤル周辺のゴミや水分を除去してください。

- ・右回し（締める）＝ハード（縮む時の減衰力が強くなります。）
- ・左回し（緩める）＝ソフト（縮む時の減衰力が弱くなります。）

### クリック数のカウント方法

リバウンドノブを右に回しきった状態から、左に回した最初のクリックをゼロとし、ゼロ位置から左回しに約30クリックまでが調整範囲となります。  
（調整範囲を超える操作は行わないでください）

### ご注意

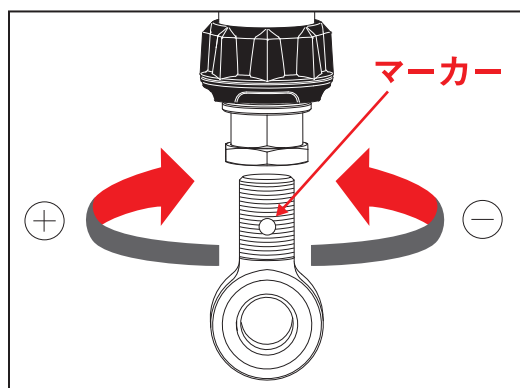
- コンプレッションダイヤルの突き当たり [0・30] から無理に回さないでください。内部の部品を破損させる原因となります。
- 調整は安全な場所で行ってください。
- 1回の調整で3クリック以上変更すると減衰力が大きく変化し走行に支障をきたす場合がありますのでご注意ください。

### ★POINT ポイント

- ・車体がふわふわして、柔らかく不安定な場合はコンプレッションをハード（右回し）にしてください。
- ・サスペンションが沈み込まず、路面のギャップなどで突き上げ感を強く感じる時は、コンプレッションをソフト（左回し）にしてください。

## 車高の調整方法

- ① サスペンションを車体から取り外してください。
- ② エンドアイのネジ周辺にあるゴミや水分を除去してください。
- ③ ロックナットを左に回しロックを解除します。
- ④ エンドアイを左に回すと車高は上がり、右に回すと車高は下がります。
- ⑤ ロックナットを右に回しエンドアイをロックしてください。



### ご注意

- ツインショックの場合は左右のサスペンションが同じ長さになるように調整してください。
- 調整範囲はネジ穴側面の丸穴マーカの示す+10mmまでとなります。これを超える範囲で使用しないでください、ネジの掛かりが浅くなり重大な事故を起こす場合があります。
- ネジ部の破損を避けるためサスペンションを車体から取り外して作業を行ってください。

## スプリング変更

サスペンション出荷時はライダー1人乗車、標準体重65～75kgの設定にしています。設定体重や、車両を極端に仕様変更して軽量化されたり、サスペンションが底付きしたり、突き上げ感が強すぎる場合は、スプリングレートの変更をおすすめいたします。

## 保証について

YSSサスペンションは万全な品質管理の下で製品供給を行い、全てのサスペンション本体に対して、2年間のメーカー保証を付加しております。万が一、製品に品質管理上の不良が発生した場合、交換または修理によって迅速な対応を行います。

